



# Gyoshu NEWS

～広報部～

Oct 2017

PUBLISHED BY 広報部

特集：夏の思い出

## 挫折の先にあるもの ～オーストラリア短期留学～

中3から2人、高1から8人、高2から2人の計12人が7月20日に日本を旅立ち、オーストラリアで18日間の短期留学を終えた。この短期留学の前半はブリスベンで「クリサリス」というリーダーシップキャンプに参加した。このキャンプが始まる前は今の自分よりも数倍も高いハードルを見上げ、不安で胸がいっぱいだった。いざキャンプが始ると、コアラを抱っこしたり、バーベキューをしたりと楽しいことばかりで、かなり浮かれていた。ところがどっこい、数日目になって、急に肉体的にも精神的にもハードな日々が始まった。クイーンズランド大学で経済の講義を受けたり、グループでディスカッションをしたりなど、かなり精神的に参るスケジュールで、自分の英語に対する自信もだんだんと無くなっていった。そんな私たちにさらに追い打ちをかけたのが、外国人とグループを組み、キャンプの最後に行うプレゼンテーションだった。そのプレゼンテーションのため、私たちは睡眠時間を削り、準備を進めた。そしてプレゼンテーション当日、頑張って書き上げ、パワーポイントとともに発表した。自分たちなりに頑張ったプレゼンであったが、聴衆

からの反応は、正直良くなかった。私たちのプレゼンは真面目すぎたのだ。日本人以外の発表者は、プレゼンテーションにユーモアを取り入れ、上手く観客を巻き込んでいた。私たちは自分たちのプレゼン力の無さを痛感させられた。でも、このキャンプの参加者や関係者は良い人ばかりで、最後は皆それぞれ仲良くなった人たちと写真を撮り、苦い思い出は残ったものの、最後には笑顔でこのキャンプを終えることができた。

そして私たちはブリスベンからキャンベラに飛び、キャンベルハイスクールの生徒の家でホームステイをした。バディと共に過ごした一週間は、最高に楽しい毎日だった。ホストファミリーも優しく、生徒も皆フレンドリー、全校生徒の前で踊った「恋ダンス」も大盛り上がり！毎日が初体験で充実した日々だった。そして、あっという間にお別れの日になり、私たちは仲良くなったバディと涙のお別れをした。その翌日にはメルボルンに行き、大学を見学した。そして9時間のフライトを終え帰国した。こうして私たちのチャレンジングな長旅は幕を閉じた。様々な体験をし、色々な感情を味わい、高いハードルであったこの短期留学は、参加した私たちにとって絶対に価値のある経験になり、私たちのこれからの更なる扉を開くことになった。

(高1・中山)

## This is my vacation ! ～未来の自分のために～

「想定外の未来をつくる！」をコンセプトに、10代の学生の企画するプロジェクト、やりたいことを応援する NPO 法人「青春基地」。夏休みを利用してその活動を見学させてもらった。

東京都内に拠点をおく青春基地。フランクすぎるその雰囲気、第一印象「大丈夫かな。東京まで交通費高かったんだけど…」と正直不安になった。それと同時に私はメンバーと話す間、内心焦りを覚えていた。第一に、自分ってなんだろうと戸惑った。自己紹介として聞かれた「あなたといえど何？」という質問に頭を悩まされた。単純だが、普段考えたことのない不思議な質問でなかなか答えを出せず、私の返答を待つメンバーの視線に冷や汗をかいた。第二に、夏休みに入りだらけていた私は「最近の気になったニュースは？」という質問に身を引き締められた。かろうじて朝のニュース番組で見かけたものを思い出したが、新聞はしっかり読んでおこうと心に決めた。第三に、メンバーがしっかり自分の意見を持ち、それを言葉にできることについて感服した。何かやりたいことはあるかと聞かれて、私は言葉を詰まらせてしまった。メンバーが皆ハイスpekに思え、はきはきと自分の意見を言える、それがカッコいいと思った。

メンバーが自分たちのプロジェクトについて話し合いを始めるとその思いは一層強まった。「夢を還るキャンパス」これは「居場所が無いと感じる 10 代へ居場所を提供したい」という思いから始まった女子高生二人組自らが運営するプロジェクトだ。日々理想と現実とのギャップに苦しみながら、企画実行に向けて奮闘しているそうだ。「同じ年くらいの高校生による、一緒に笑顔で夢を語れる、夢を応援できる…そんな居場所をつくりたい」と二人は語る。

「どん底にいても、前を向きたいんだ、夢をかなえたいんだ、きらきらしたいんだ。」その言葉に不覚にも涙を流さずにはいられないのは私の涙腺に問題があるのだろうか？小説の一説に出てきそうな言葉を操り、自分たちの夢に向って精一杯取り組む彼女達は確かにきらきらと輝いていた。

この体験を通して、同じ高校生でもこんな活動をしている人もいるのかと驚いた。その意欲、好奇心の強

さに圧倒された。自分の意見を持ち発信できるあの人々を羨ましく思った。そして自分の内面について振り返った。メンバーと自分を比較してその違いに目を見張る。話し上手で聞き上手。知識豊富で生きる雑学集。大袈裟だと思われるかもしれないがこれを書いている時分、この体験で得た興奮が冷めやらぬ。それだけ自分にとってタメになる体験をしたのだと心の奥でそう思った。自分を考えるという機会は大変だと思うが、それは意外と難しいことで、この体験は自身を見つめ返すのにちょうどよい機会になったと思う。

(高1・堤)

## 夏休みだからこそ…

待ち遠しかった夏休みも終わり、2 学期へ突入した。暁秀生の夏休みはどうだっただろうか。そこで、今回は私（筆者）と高校 1 年生の Y 君の夏休みで印象に残ったことについて紹介する。

まず、私は横浜そごうで開催されていたレオナルドダビンチの展覧会を訪れた。その展覧会は 2019 年のレオナルドダビンチの生誕 500 周年を記念して開催されていた。レオナルドは、「最後の晚餐」や「モナリザ」で有名だが、彼は膨大な量のメモとデッサンを残しているのをご存知だろうか。そのメモの内容は、機械工学、天文学、物理学など多岐にわたる。今回はそのデッサンを模型化し、展示。実際に動かせるものも多数あり、レオナルドの偉大さを五感で感じることができる。一通り見て驚くのは、第一にレオナルドが当時考案した技術が現代の物や暮らしに応用されていることだ。第二に、ばねや歯車のもととなるような、レオナルドの考案だ。私は終始驚かされるばかりであった。大学で工学系の学部に行きたい方は一見の価値がある。

次に高校 1 年生の Y 君にインタビューをした。Y 君は今夏、友人と熱海市の海上花火大会を見に行ったという。Y 君によると、熱海の花火は「普段見ているものとは違い、迫力があつた。色鮮やかで花火の形がとても豊かだ。」と感想を寄せてくれた。熱海の雰囲気に関しては「観光地って感じ。商店街はとてもレトロだ。お店の人の客に対するもてなしは、プロ。」と満足そうに語る。ただ、ちょうどこの日全国的にも定評がある熱海の花火にハプニングが起きた。熱海の花火は、



開始 10 秒前からカウントダウンするのが恒例だ。しかし、この日は立ち入り禁止区域に船舶が進入した影響で開始時間になってもカウントダウンは行われず、観客は驚きを隠せなかった。そして、その約 15 分後に打ち上げがはじまり、この日は 15 分で 5000 発という、1952 年の開始以来、熱海の花火史上初の規模で繰り広げられた。

ところで今年、暁秀の夏休みの期間が大きく減った。しかし、夏休みはもちろん勉強することも大切であるが、その時にしかできないような体験をすることも大切であると思う。展覧会を見るために東京や横浜へ行くこともその一つだ。そして、友達と花火をゆっくり見るのも人間関係を育む上では大切である。そのように考えると夏休みの効用は大きいのではなかろうか。

ちなみに、Y 君と花火を見にいったのは、筆者です(笑)。  
(高 1・出口)

## Take Action Camp ～未来への道筋～

この夏休み、Free The Children Japan 主催の「Take Action Camp」というキャンプに参加した。このキャンプには小学 5 年生から高校 3 年生までが参加できる。今回は、小学 5 年生から高校 2 年生までの学生たち約 30 人が御殿場にある国立中央青少年交流の家に集まった。私は友達に誘われて何気なく参加したが、今はその友達に誘ってくれたことを心から感謝している。

このキャンプは 8 月 14 日から 8 月 18 日に開催され、九州から東北まで幅広い地方からたくさんの学生が参加した。私は生徒側として参加したが、ファシリテーターという進行役の立場でも参加できる。また、このキャンプは先着順で参加できるので、気軽に申し込むことができるのが一つの魅力だ。このキャンプの主な内容は、「世界中にある様々な社会問題について色々なアクティビティーを通して学び、それについて自分ができるアクションを探し出す」というものだ。

まず、1 日目にはたくさんの人と触れ合い、アクティビティーなどを通して仲良くなる。2 日目から 4 日目は様々なアクティビティーやボランティアを通して社会にあるたくさんの問題に触る。そして最終日である 5 日目にはそれらの社会問題に対して自分がとれるアク

ションについて考え、伝えるのだ。この 5 日間は私にとってとても濃い、充実した 5 日間だった。

まず、このキャンプは私にとって新鮮で有意義なものであった。その中でも一番大きなメリットは、自分のやりたいことを見つけることができたことである。私には何一つ夢がなかった。いや、全くなかったわけではない。幼稚園や小学校の頃はパティシエ、女優、警察官、数えきれないほどたくさんあった。しかし、中学生になると突然夢が現実的になってきて、本当に自分のやりたいことは何かわからなくなってしまったのだ。そして、中学 3 年間でやりたいことはとうとう見つからず、気が付いたら高校 1 年生の夏になっていた。そんなとき、友達にこのキャンプに誘われたのだ。「大学に入るのには必要な経験だし」と、何気なくこのキャンプに参加した。そして、これが夢を見つけるカギとなったのだ。私は様々なアクティビティーをこなすうちに社会問題に関して興味が湧いてきて、だんだん自分から遠い存在だった社会問題が身近に感じられるようになったのだ。すると、「これらの問題に対して何かできることはないかな？」と考えるようになってきて、一緒にのテントにいた仲間たちと午前 3 時まで、自分たちができる行動について話し合っていた。そして、暁秀でもできることについて考えた。

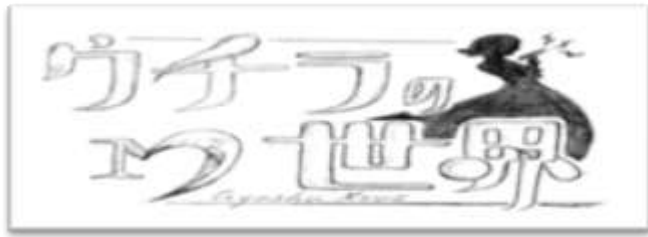
今回のキャンプでたくさんのやりたいことが見つかり、私にとっての約 4 年ぶりの夢ができたのだ！夢を見つけた瞬間、今まであった将来に対しての霧が一気に消え、未来への道筋が見えてきたのだ。これは私にとってとても意味があることであり、夢を見つけるきっかけを作ってくれた友達には感謝してもしきれない。

日本の北から南にかけて参加している参加者と連絡を取り合い、お互いの行っているアクションについて話し合える友達ができ、社会問題についても学べ、自分のやりたいことが見つかりなど、一石十鳥以上の価値がこのキャンプにはあった。これからも自分の見つけた夢を大事にし、この夢に近づくように積極的にアクションを起こしていきたいと思う。

(高 1・宮本)







ウチラの世界 ～スペシャル座談会！～

暁秀生による、暁秀生のためのぶっちゃけトーク！  
今回のテーマは、学生たちの永遠の悩み！

「なんで勉強しなくちゃいけないの？」

2学期に突入し、3年生たちはいよいよ受験モードに。  
怒涛の1学期を乗り越えた1年生たちも、「この学校、  
やたらとテストが多くない？」なんて思いはじめてい  
るかもしれない。

小テストに定期テスト、実力テスト、さらには全国  
模試。大小さまざまなテストと大量のテスト課題は、  
暁秀生を苦しめるのに充分だ。

「なんで勉強しなくちゃいけないの？」  
誰もが一度ならず考えるだろう。「勉強しなさい！」  
と叱られて、嫌な気持ちになることも、あるのではな  
いだろうか。

では、なぜ私たちは「勉強」をしなくてはいけない  
のだろうか。このあたりで少し、一緒に考えてみよう。

メンバーはこちら！

2-4 加藤伶音 (レオ) 授業  
をやると、眠くなります。



2-4 田邊龍之介 (リュウ) 知ら  
ぬ存ぜぬ。知りませぬ。



3-3 一色春佳 (ハル)  
来世はペガサスになりたい。



1-B 日吉海斗 (カイ)  
1日が自分だけ、  
30時間にならないのかなあ。



2-Z 花井玲美 (レミ)  
ツッコミ極めて5年。くりいむしちゅ  
ーの、うえだしんやになりたい。



教師 北村淳 先生  
すだちの木に愛を与えています。  
すくすく育ってますよ。



司会 3-3 戸田愛香  
座談会の司会！こんなの初めて！

トーク、スタート！！

まずは導入。につっきテストのおはなし

司会：テストお疲れさまでした！いかがでしたか？

ハル：た、たの、

リュウ：楽しかった？うそだろ？

ハル：そう言わないといけないのかと…。本当はテ  
ストなんて嫌。

カイ：なんか自信なくなっちゃったな…。テストの  
せいで。

レミ：しょうがないよ。夏休みだ。

司会：テスト勉強が好きな人ー？

リュウ：いたら逆にやばいから。

司会：皆さん、テスト勉強は、お好きじゃないんで  
すね。

一同：だいつ嫌いです。

レオ：だって、面倒くさいじゃん。

レミ：なんで勉強しないといけないのって思う。

リュウ：それ！やっぱりそこだよ。

レオ：そのまんま今回のテーマだ…。

テストにまつわるエトセトラ？テスト勉強はいつから  
はじめる？

2週間前…春佳

10日前…伶音 龍之介 海斗

1週間前…愛香 北村先生

3日前…玲美



レミ：テスト勉強は3日前から、かな。ギリギリにならないと焦らないタイプ。

リュウ：テスト前の部活でものびのびしてますしね。

ハル：私は、2週間前くらい前から。

一同：偉すぎだろ！

司会：皆さん、テスト勉強はちゃんとしているんですね。嫌いなのに。

ハル：マミーに怒られちゃうもん。

リュウ：我々は、親のおかげで何とか生きているんだから。親から見放されたら、おしまいだ！

カイ：なんか課題って、やらなきゃいけない物って気がする。成績に影響してくるから、怖いって。

#### みんなが暁秀に来たワケ

司会：皆さんは今暁秀にいます。勉強に重きを置いているこの学校に。ココを選んだ理由は何だったんですか？

先生：あれま。みんな下を向いちゃってるよ…。

リュウ：確かに。勉強嫌いなのに、この学校に来たんだよな。

ハル：私は、将来高レベルな大学を目指すときには、暁秀の方がいい教育を受けられるってマミーにいわれたから。

レミ：私は、ブランドかな。私立でバイリンガルってなかなかないから。

カイ：俺は公立中学校出身。家が伊東で遠いから、部活が多すぎない暁秀なら勉強もできると思って。

レオ：IB（バイリンガルコース）っていうのもそうだけど、やっぱり今後英語が大切になってくるから、そこはメリットがあるのかな、と思って。

#### やっぱり勉強は気になる？

司会：やはり皆さん「勉強」を意識しているんですね。

レミ：やらなくていいとは思わない。

リュウ：だけど、意味が見いだせない。今やってることは結局無駄なのかなって。

カイ：やっぱり疑問を抱いてしまう。大学入試までは使うのだろうけど、じゃあ大学

入試のためにやってるだけでいいのかって。

レミ：大学入ったから何？みたいな。

レオ：しかも、進む道によって勉強だって違ってくるはずなのに。

レミ：今は大学のレベルとかで仕事が決まってきちゃうから、まあやっているけど…。本当はそれだって嫌だ。

#### みんなの夢のおはなし

司会：皆さんは、将来の夢ってありますか？

ハル：ペガサスを作るための遺伝子組み換えをすること！

レミ：えっ？ペガサスを作って…。

ハル：いや、私がペガサスになる。なりたいの！勇氣と愛の象徴だし、宇宙を飛べるから。地球が終わっても、私は、逃げられる。

一同：おいっ！

リュウ：全く考えてない。大人どころか、まだ高校すら見えてこないよ。

レオ：俺もまだ考えてないな。ただ、習ったことを何かしらに生かしたい。今までやってきたものが無駄になるなんて、そんなのは嫌だ。

レミ：私は周りの影響で、医者になりたいと思っている。医者って仕事はこれからも無くならないんじゃないかな。まあ、なれるなら芸能人がいいんだけどな。

ただ、それじゃあIB（バイリンガルコース）で頑張ったものはどこにいっちゃうんだろうって思ったり。

カイ：俺は、海の資源について研究をしたい。父が海関係の仕事なのもあって、海に興味があって。海は「地球最後の神秘」だと思う。秘密がいっぱいあるから、面白そう。

先生：私の場合は先生になったきっかけ、ですね。もともと考古学の発掘指導員なんですよ。ある時、土器について人に説明する機会があって。そうしたらその人に、「北村さんが熱っぽく語ってくださるから仕事が楽しくなった」って言われて。表情がね、ぱっと明るくなっ



てるんですよ。それを見て思ったんですよ。人って何かのきっかけですごく変わるんだって。人間って面白い。だから先生になって、みんなが変わるところを見てみたいって。それが本当に楽しいから。

未来と夢と、ちょっとした人生のおはなし

レオ：夢のために勉強する…。うーん

ハル：それだけではないかも。選択肢を広げるために勉強する、とか？

リュウ：大学に入った（進路が決まった）からってそれ以外の人生が消えたわけじゃないもんね。

レミ：でも、それだけしかない気がしちゃうな。変えるって難しくない？1回安定した後で「変えよう」なんて思えるかな？

司会：ただ、夢って本当に色々ありますよね。必ずしも今の勉強が直結しない仕事だってある。そういった夢を持つ人には、今の勉強って必要なのでしょう…？

リュウ：たしかに、よく考えると、中学校を卒業すれば働けるんだよね。あまりピンとこないけど。

カイ：中学のクラスにも2、3人いたな。土木関係で就職した人。

レミ：今は専門学校も多いし。色々な人生があるよね。

リュウ：その人が決めたことならいいんじゃないかな。そのための勉強をすれば。

ハル：やりたいことが後から出てくるかもしれないよ。勉強はやっといた方がいいんじゃない？

カイ：俺は、いつか先生に「課題そのものよりも、課題をやり遂げる我慢強さが大切なんだ」って言われたことがある。そういう部分は、将来につながってくるからって。

レミ：我慢強さ。勉強することだけが大切ってわけじゃないのかもね。

なんで「勉強しなさい」って言うの！？

リュウ：勉強やれって先生たちが言うのはさ、俺たちがいい大学に入ること、それが学校の知名度を上げることになるからなのかなって。少

しひねくれてるけどさ。そうすれば、学校の利益にもなるんだろうし。

カイ：でも俺たちだってさ、そういう理由で暁秀を選んでたりしない？いい大学にたくさんの人を輩出してからって。

レミ：今は大学選びだってそうだよな。大学名とか偏差値ばかり見ちゃうもん。

レオ：そんなんじゃないことだって、たくさんあるのにね。

リュウ：やっぱり今も昔も変わってないんじゃないのかな。いい高校、いい大学、いい企業に入ることが大事、みたいな。

司会：では皆さん、本当に学校のためにやっているんですか？勉強を。学校の利益を考えながら、勉強しているのですか？

一同：いや、違う。

司会：だから私たちは、それに縛られているわけではないんですよね？

レミ：うーん。じゃあ、なんでやらされてる感があるんだろう。

カイ：それは…課題を出されるから。でもそれがなかったら、絶対やってない。

レミ：むしろ「ありがとう」のはずなのにね。

もしも勉強しなくていいなら…。

先生：みんなが今やってる勉強っていうか、受験勉強って大学に入る基準だよな。もしも受験勉強がなかったら、みんなはどうやって評価してもらいたい？どう判断すれば、「公平」だといえるのかな？

カイ：勉強だけじゃわからないもの。例えば…人柄、とか？

レオ：どうやって判断するんだろう、人柄って。

リュウ：そうか、結局勉強が一番わかりやすいのかな。

先生：わかりやすいというか…。生まれた瞬間から数学ができる子はいないよね。だから、テストの点ってその人の努力も表してるんじゃないかな？こちら側からすると、そこは見たいと思うよ。

リュウ：でも、世の中には勉強しなくてもできちゃう人がいるよね。



レミ：逆に、どれだけがんばってもできない人だっている。

レオ：だから、不公平だと感じるんだね。

リュウ：誰かが耐えているから、世の中がうまく回っていくのかな。

ハル：そこを公平にしようとする、逆におかしくなっちゃう。本当の平等ってないのかも。

#### 未来を変えたいのなら

レミ：やっぱり時代は変わっているんだなって思う。  
今は AO 入試とかもあるしね。ただ、私たちの時代には変わらないよね。この（学力重視の）仕組みはさ。

カイ：それを変えたいと思うなら、今はこの制度の中で、生き抜くことが大切なんじゃないかな。勝ち上がれば、少しは今の仕組みを変えることができるかもしれない。今それを「変える力」は、学力なんだよ。きっと。

リュウ：勝てる人はいいけど、報われない人はいつまでも変わらないんじゃないのかな。

カイ：それでも、その人たちのために、この仕組みを変えてあげたいと思えるのなら、それは信念になると思う。苦しい人の気持ちがわかるリーダーになれたら…。

リュウ：人は力を持つと変わっちゃうんじゃないのかな。俺はまだ勉強を信じることができない。

ハル：でもやらなきゃいけない。

レミ：そこは変わらないよね。

レオ：変わらない。ずっと？いつまでも、変わらないのかな？

#### そろそろお開き、の前に。

先生：ここまで話してきたけれど、勉強しようって思う？

レミ：思う…のかな？でも、やるかどうかは、別。

カイ：本当にそう思えるまで、まだまだかかりそう。

先生：みんな、暁秀に来て楽しい？嫌な勉強を、これだけさせられているでしょう？

レミ：楽しい。それは本当に。なんか、ちょうどいいっていうか。

リュウ：やっぱりそこだな。バランスいいから、居心地がいい。

ハル：みんな個性的だから、一緒にいて楽しい！

カイ：なんだか、雰囲気がいい。1人で勉強するのはすごくつらいけれど、みんなが頑張っているから俺も頑張れる。

#### では最後に。ねえ、なんで勉強しなくちゃいけないの？

リュウ：やっぱり社会って結構厳しいんだと思う。その荒波の中で、わかりやすく生き残れるのは、学力なんじゃないかな。いつかは変わるかもしれない。それを変えるためにも今は生き抜かないと。だから、必要だと思う。  
ただ、俺はやらない！

一同：こらっ！

レオ：この世には、勉強のほかにも素晴らしいことがいっぱいあるから、勉強だけに縛られるのは違うと思うし、そうはなりたくない。遊ぶときは遊んで、やるときはやる。そうすれば、いろいろなことを楽しめると思う。

カイ：将来のための貯金、かな。今きつくても、頑張った分はきっと将来につながるから。そうすることで、「なりたい自分」を叶えられる人になれると思う。

ハル：自分で自分の可能性を広げたい。いっぱい選択肢を作って、自由に選べるようにしたい。  
だから、勉強する。

レミ：なりたい自分を見つけた時に、ためらわずにそこに飛び込んでいけるようになりたい。自分で自分を決めるためなんだと思う。

先生：私にとっての勉強とは、自分の知らなかった部分が表面に出てくる、そんな快感を教えてくれるものなんだ。だから、勉強したい。自分の種がぱーっと育っていく感覚は、ずっとあるよ。人は一生育つんだね。

司会：では、座談会はこれにて終了とします。皆さん、本当にありがとうございました！

一同：ありがとうございました！

(中 3・戸田)



## こぶたの羽 ～あなたに幸せ届けます～その 2.

秋の収穫祭にピッタリ！簡単"サクホロ"スイーツ『ぶーちゃん！ハロウィンパーティーやらない？』

「いいね、楽しそう！みんなで食べ物を持ち寄ってやろうよ！」

『じゃあ私はスイーツ持ってくるね。…あ』

「どうしたの？」

『何持って行こうか…かぼちゃのスイーツとか憧れるけど、難しそうだし。』

「じゃあ、スノーボールとかどう？」

『スノーボールって、バレンタインやホワイトデーでよく貰う…丸いクッキーだよな？』

「うん。それに 100 円ショップで売っている"かぼちゃパウダー"や"紫芋パウダー"を使って、秋らしいカラフルなスノーボールを作ってみたらいいんじゃない？」

『美味しそう！アーモンドも合いそうだね！』

### 《材料》

(30 個：アーモンド 10 個、かぼちゃ味 10 個、紫芋味 10 個)

- 薄力粉(ふるっておく) 120g
- 砂糖 30g
- バター(常温にしておく) 90g
- 卵黄 1/2 個分
- バニラエッセンス 2～3 滴
- 塩 ひとつまみ
- アーモンドダイス 20g
- かぼちゃパウダー 小 1
- 紫芋パウダー 小 1
- レモン汁 小 1/2
- 粉糖(溶けにくいものが理想) 適量

### 《作り方》

1. ボウルにバターを入れ、泡立て器で白っぽくなるまでよく練り、クリーム状にします。
2. 1 に砂糖・塩を入れ、砂糖が溶けるまで混ぜます。そして卵黄・バニラエッセンスを入れ、さらに混ぜます。

3. 2 に薄力粉を入れ、手で粉っぽさがなくなるまで混ぜてひとつにまとめます。
4. 生地を 3 つに分けます。1 つの生地でアーモンドダイスを包み込んでアーモンドダイスが均等に混ざるように手で捏ねます。もう 1 つの生地にはかぼちゃパウダーを包み、均等に発色するように捏ねます。紫芋パウダーはレモン汁とよく混ぜてから(練る感覚)、生地で包みかぼちゃ味と同様に捏ねます。
5. それぞれの生地を各 10 等分にして、ボール状に丸め、クッキングシートを敷いた鉄板の上に並べます。
6. 170℃に予熱したオーブンで 20 分焼きます。
7. 冷めたら粉糖をまぶします。袋に粉糖とスノーボールを入れて軽く振るとやりやすいです。

詳しいレシピはこちら↓

<https://cookpad.com/recipe/4663720>

『なんで紫芋パウダーにレモン汁をかけるの？』  
「紫芋パウダーは卵のアルカリで青く変色しやすいの。だから生地と混ぜる前に酸性のレモン汁をかけてよく練って馴染ませておくと、中和して綺麗な紫色になるよ。」

『へー、そうなんだ！』  
「プレゼントにする時は、可愛いカップケーキのカップや紙コップにスノーボールを入れて、それを透明な袋に入れたり…蓋付きのカップもいいよ。」

『聞いたことない材料がいっぱいあるけど…スーパーになかったらどこに売ってるの？』

「100円ショップで探してみても！"セリア"に行けばほとんどあると思うよ。珍しい材料やたくさんのラッピングが売ってて便利なんだ。」

『よし、早速材料買って作ってみるね！』



(高 2・高木)



## 高木渚の流儀

趣味はハンドメイドで、友達の誕生日には手作りケーキをプレゼントしてしまうほどの腕を持ち、休日にはたくさんのパンを焼いて、さながら町のパン屋さん。朗らかに笑う彼女の名は「こぶたの羽」でおなじみ、ナンチャンこと高木渚さん。その姿に密着した。

「お菓子は世界を救う！……と思う」

高校2年高木渚さんはそう明言する。例えばテスト期間中や悩み事があるときでも、おいしいものを食べていれば、幸せな気分になることができるという。

COOKPAD でもたくさんのレシピを載せていて、なかでも渚さんのお気に入りはいちごのシフォンケーキ。これは小6から中2まで、3年かけて開発した渾身のレシピだそう。曰くこのシフォンケーキを食べた人のリピート率はなんと100%という。これは決して大げさではなく、実際私も渚さん特製のシフォンケーキをご馳走していただいたが、甘すぎず、口いっぱいにいちごの香りが広がり、何より滑らかな口どけのシフォン生地はふわふわで柔らかい。確かにもう一度食べたい。こだわりとしてはベーキングパウダーの入れる量。シフォンケーキの用途によってその量を調節するそう。本当は少ないほうが柔らかく美味しいので、出来れば1グラム以上入れたくないそうだが潰れてしまえばしょうがない。柔らかさを求めるのならベーキングパウダーは少な目に入れるといいらしい。先生方にもお墨付きだ。この夏休みには「ジュニア料理選手権」や「私立高校生の料理レシピアイデアコンテスト」へ挑戦したという。そんな渚さんの将来の夢はカフェオーナーとしてたくさんの人を料理で幸せにすること、また、カフェオーナーに限らずに何か料理にかかわる仕事がしたいそう。いままで自分が苦しい時に助けてくれた人達に恩返ししたい、そして好きな料理でたくさんの人を幸せにしたいという思いが原点にある。「自分は好き嫌いが多く、苦手なものをカモフラージュさせる料理レシピの開発や、おいしくない病院食をよりおいしくつくれるレシピ開発に携わりたい」と語ってくれた。とりあえず管理栄養士の資格を取得するのが最初の目標だという。これからも夢に向かって頑張ってもらいたい。

おいしいお菓子楽しみにしています！

(高1・堤)

## 「白黒熊ニュース」

白黒熊とはなんだろう？この題名を見て思った人がいるかもしれない。白くて黒い熊。漢字だけでも大体予想がつくだろう熊とはパンダの事だ。

パンダの標準和名は「ジャイアントパンダ」だが、古くはその姿から「白黒熊」や「色分熊」と呼ばれていたらしい。現在でも全く消えたわけではなく近代の博物学や生物学では使われているんだとか。

パンダのニュースといえば最近話題なのが、上野動物園で生まれたパンダの赤ちゃん。

6月12日に産まれてきてから4か月がたとうとしているメスのパンダの赤ちゃん。動物園では3ヶ月の間に13回もの身体検査とその様子を公表している。なんと、1ヶ月に3、4回。ペースが早いのに関わらず、赤ちゃんはどんどん変わってパンダらしくなっている。生後5日たった頃からパンダ特有の白黒模様が薄らと出てきて、80日たった頃には画像からでもわかる思わず触ってしまいたいようなモフモフ感がある。

現在は母親のシンシンと一緒に生活している。9月下旬には「シャンシャン」とい名が決まり、12月には一般公開になるそう。とても楽しみである。

(中3・北島)

## 連載小説 ～ 第 2 話 ～

読書が好きだ。本は、見たこともない新しい世界を、教えてくれるから。

本の世界を旅する。そんな至福のひと時を邪魔する者などいない。…ただ1人を除いては。

「ドーブラエ・ウートラ！涼音」

前川涼音はため息をついた。ほら、今日も来たぞ。顔を上げ、目の前の少女を見る。

「で？茶柱さん、今日のそれは何語なの？」

問われた少女は満面に笑みを浮かべ、さも嬉しそうに答えた。

「ロシア語よ！私はロシア人のクォーターなの。」

「昨日はイタリア人のハーフだって言ってたくせに。」涼音は思わず苦笑をもらした。

茶柱立子が転校してきて1週間。毎朝繰り返されている会話だ。



ひょっとすると、立子は本当に外国人の血を引いているのかもしれない。明るさを感じさせる目鼻立ちも、その性格や雰囲気も、どこか日本人らしくないのだ。彼女は何者なんだろう。どこから来たのだろうか。謎は一層深まるばかりだ。

ふいに立子が口を開いた。

「そういえば涼音って何部？」

「どこにも入っていない」

次の瞬間、立子の目が驚愕に見開かれた。

「入っていないの！？日本人なのに！」

「あのね。日本人だから部活に入るとかそんな決まりはないの。他にやりたいことがあったり、通学が大変だったり、部活に入っていない人なんていっぱいいるよ。っていうかあんたも日本人だろ！」

「えーっ、そんなぁ。日本の学生といえば部活だと思ってたのにな。やっと部活ができるって楽しみにしてたのに…」

なぜか日本人にこだわる立子。それより、さっきから何か引っかかる。

「もしかして茶柱さん？部活やったことないんじゃない？」

「生まれてこの方、一度も」

「おい！人のこと言えないじゃん！」

「しょうがないって！部活がある学校なんて、行ったことなかったもん。」

「部活がないって…今までどこの学校に通ってたのよ。」

その問いは無視して、立子は続けた。

「えー、じゃあ涼音は、今から部活に入ろうとは思わないの？」

「考えても見てよ。今は5月。あと3、4か月で3は引退なの。今から入るって言ってもねえ…」

それを聞いて、立子はしばらく考え込んでいるようだった。

突然、立子は顔を上げた。あまりに突然だったので、涼音は思わずのけぞる。

「涼音！今日の放課後、部活体験に行くよ！」

「ちょっと待った！今の私の話聞いてなかったの？今さら遅いって！」

「もう決めたの。用事は特にないでしょ？やってみなきゃ何もわからないよ。ほら、行かないの？行くでしょ？Yes or No! どっち！？答えて！」

ものすごい剣幕だ。涼音は冷静な思考を失った。

「い、Yes…」

「はいっ、きーまりっ！楽しみにしてるね。涼音、ありがとう！わーい！部活だっ！」

狂喜する立子を見ながら、涼音はもう一度ため息をついた。彼女といると、どうも調子が狂うのだ。

「涼音！私、まずは茶道部に行きたい！」

一体私は、どこまで流されていくのだろう。

(中3・戸田)

## お悩み相談

相談者 I さん

～怪我をしてスポーツができなく、毎日暇です。どうしたらいいですか？～

予定がなくて暇すぎる日は、絶対にやらないことを思い浮かべて実行してみてもいいがですか？

例えば、いつもなら観ないテレビ番組を観たり、いつもなら食べない料理を食べてみたり、いつもはやらない料理をしてみたり… 最初は何となくでやってみたことでも、やっていく内にどんどんその面白さを見つけ、はまっていくかも知れません。

また、忙しい時にはあまり出来ない、部屋の片付けや不用品を思い切って断捨離するなどもいいかも知れません。

最後に、一番オススメなのは、広報部に入部して楽しく新聞を作るのも良い手だと思いますよ。

相談者 o.y さん

～毎日眠くて眠くて仕方がありません。

授業を集中して受けたいの、眠気におそわれてしまい、授業が終わったあと後悔します。

眠気をとる画期的な方法はありませんか？～

眠気で気絶しそうな時、そんな時、もし、あなたの横にゴキブリが現れたら・・・すぐさま逃げるか、あるいは、勇敢な猛者は戦いますよね。もしそんな危機的な状況になったら、今迄の眠気はどこかへ消えているはずですよ。



その状況に似た状況を作り出してみましょう。まずは息を限界まで止めてください。もうダメ、限界ってところまでです。限界まで息を止めたら、姿勢を正して深く深呼吸をしてください。

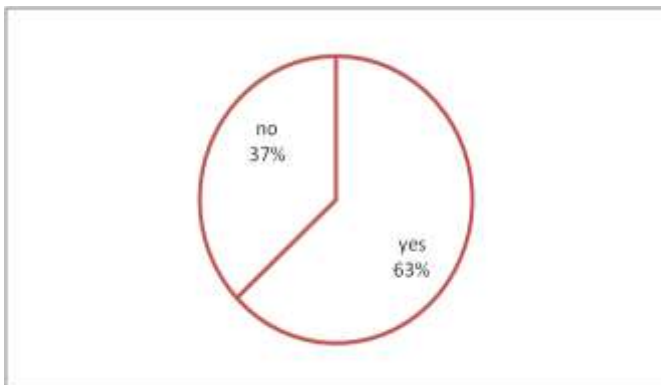
これをやると、体は窒息の危機が迫っていると感じ、眠気を忘れて酸素を得ようとしします。そして、一気に息を吸うことで脳に酸素が行きわたり、血の巡りが良くなって、頭が冴え、目と頭がかなりスッキリします。  
(高2・長田、山本)

## 静岡新聞「こちら高校生」発行

9月13日付、静岡新聞の「こちら高校生」というコーナーに暁秀高校の広報部が手掛けた記事が一面に掲載された。事前アンケートに協力してくれた皆さん、ありがとうございました。その際に調査したアンケートで、掲載されなかった項目を紹介する。

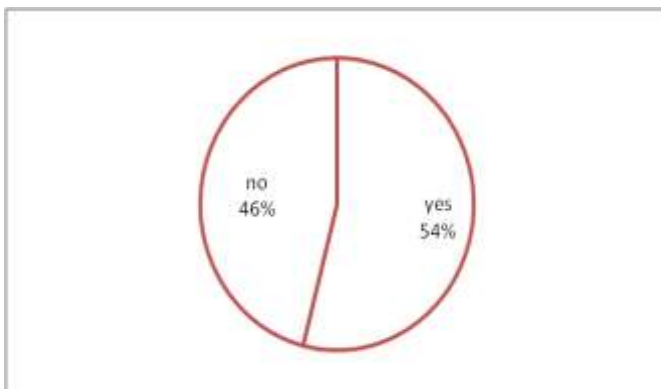
### ■英語の勉強は好きか？

・・・YES・63%、NO・37%



### ■英語を使う職業に就きたいか？

・・・YES・54%、NO・46%



### ■修学旅行の行先希望は？

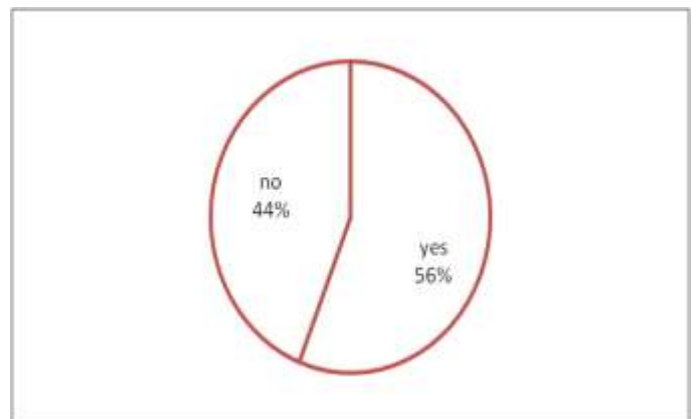
- ・・・1位・ハワイ
- 2位・アメリカ
- 3位・沖縄

### ■好きなアーティストは？

- ・・・1位・嵐
- 2位・μ's、ゆず、欅坂46

### ■塾に通っているか？

・・・YES・56%、NO・44%



### ■学校で好きな場所は？

- ・・・1位・教室
- 2位・ベランダ
- 3位・図書室

### ■昼休みのキーワードは？

- ・・・1位・勉強・課題
- 2位・先生
- 3位・ゲーム

### ■学校のコンビニで好きな商品は？

- ・・・1位・唐揚げ
- 2位・プリン
- 3位・おにぎり

### ■学校指定かばんはどれを使っている？

- ・・・ショルダー型手提げB・78%
- 3Way型ショルダーB・16%
- スポーツ型ショルダーB・6%



G-studio

"great"で"global"な"Gyoshu"の"good"な人々を発見！

### 教 師 編

1 年 2 組の担任であり、英語教師の林晃子先生にインタビューした。

Q 1 : 英語教師になった理由は？

A 1 : 中学の時に英語が大好きで、英語に関わる仕事がしたいと思ったから。

Q 2 : どうして暁秀の先生になったのか？

A 2 : 英語教育に力を入れていることが有名だったから。

Q 3 : 英語上達の秘訣は？

A 3 : 英語に毎日触れること。

Q 4 : テニスはいつからやっていますか？

A 4 : 中学時代は軟式、高校大学時代は硬式テニスをしてた。

Q 5 : 他の部活の顧問になりたいと思ったことはあるか？

A 5 : やったことがない部活の顧問。

Q 6 : 英語以外でどの教科が得意か？

A 6 : 国語

Q 7 : 旦那さんのことは今でも好きですか？

A 7 : うん♥

## 登山部？遂に富士山登頂！

4 月から富士登山に向けてトレーニングをしていた 4 人の先生方… 8 月の台風接近のさなか、夜 10 時から富士宮口から夜を徹して登り、往復で約 13 時間ほどかかったそうだ。苦難の末、登頂を果たしたということで富士登山の感想を聞いてみた。

〔回答者：小川先生・市川先生・和泉先生・熊澤先生〕

Q 1 : 大変だったか？

A 1 : (小) すごく大変でした…。(市) はい。

(和) 死にそうだった。(熊) とてつもなく大変。

Q 2 : 景色はどうだったか？

A 2 : (小) 満天の星空が視界に飛び込んできて疲れが吹き飛ぶようでした。(市) 太陽が出てきてからはきれいでした。(和) 景色が目に入らないほど辛い。(熊) 雲海や星空、下界の景色を見たときは、登って良かったと思った。

Q 3 : 登山が辛い中での楽しみは？

A 3 : (小) 様々な自然とのふれあい。(市) 頂上の景色を楽しみに登る。(和) 楽しさなんてない。(熊) 小川先生の星座講座と社会科教師たちの小難しいローマ史。

Q 4 : 気をつけた方が良いことは？

A 4 : (小) 気軽な気持ちで登らない。(市) 寒さ。(和) ゆっくり登る。(熊) 焦らないこと。

Q 5 : 何を思いながら登ったか？

A 5 : (小) 早く寝たいな…(市) いかに風をよけるか。(和・熊) 無心…

Q 6 : 登る前と後で変わったことは？

A 6 : (小) 富士山を見ると達成感がわいてくる。(市) 登山道具が充実した。(和) 二度と行きたくない。(熊) 憧れの富士だったが、今は、険しい修行の山にしか見えない。

Q 7 : また行ってみたいと思うか？

A 7 : (小) 富士山は一回でいいな…。(市) 一泊計画ならいいかな。(和) 二度と行かないという決意のみ。(熊) 天気も良く、登山客も少なくとも登りやすい状況で、富士山は私たちを歓迎してくれていたが、やはり自分の体力のなさが身に染みた。富士宮口の山頂にある浅間神社でお参りはしたが、剣が峰までたどり着けなかったことは少し心残り。あと、あまりの寒さで手がかじかみ、山頂郵便局からハガキの投函を諦めたことが残念。

